

分割投資について

多くの投資家はリスクを分散するために分割投資をおこなっている。利益をコンスタントにあげていくためには分割投資をおこなわなくてはならない。1銘柄だけに投資をおこなっていれば、もしその会社に予想しない何かが起こったら、相場全体が上昇している買いの好機であっても全く利益をあげられなかったり、場合によっては投資資金が回収できなくなってしまったりするからだ。

柴田秋豊先生は分割投資に関して、週間「株式と商品」の中で詳しく述べている。右の囲みの記事はその全文を転載したものだ。旧字体等はあるが、理解することに問題はないと思われるので、じっくり読んでいただきたい。

学ぶポイント

・分割投資は秋豊流投資の重要な憲法である。
—柴田秋豊—

秋豊流の分割投資で万ーに備えよ!!

分割投資は主力に5割残りは3銘柄に!!

分割投資の特典を挙げれば

天下の横綱でも、ひと場所にて二〜三回黒星を頂戴することがあるのと同じで、本誌報道の成績表を見ても、十回に二〜三回は損切、大中の失敗もあります。

それでも五年〜十年間の長年月、然も十倍〜百倍に殖えた金額を投資していながら、別表の如き驚異的成績を挙げているのは、法則的的確性ばかりではなく、分割投資の賜と言わなければなりません。

分割投資の特典を挙げれば

第一に、動きの荒い商品なら十四種の全銘柄に、株なら全業種に互る三十銘柄に、いや応なしに分割させられると言う規則によって、人智判断と人気の裏を、多少でも行ける。

第二に、意外の利が乗っても、総投資額に比べて少ないので、転換法示が現れるまで頑張って大中の利喰が出来るし、逆に動いて引かれた場合には、建玉が少ないうえ、素直に損切して途転出来る。言うなれば自然に、利は大中に取れ、損は小中と済む。

第三に、大中の損を二、三銘柄出しても、一店で分割投資していれば、他の銘柄の利と証拠金の通算で、追証を呼ばれるようなことは無い。

第四に、私初め皆様でも、これが良いと思う銘柄は、一般人気も同じと見えて、儲かった例は少なく、法則は転換したと見えて、儲かっていたら少なくて、う銘柄は、誰でもそう思っているのだ。その裏に隠れた材料が潜んでいる為に、意外の大中利喰になることが多い。

第五に、如何に猛スピードを出せるオートバイでも、少しの油断が命とりにもなりかねない。あれやこれやを考究して、分割投資を、秋豊流投資の重要な憲法とした次第です。

出動銘柄は数銘柄でも良い

本誌の二十四頁に連載している商品の報道成績表は、全国の商品取引所に上場されている銘柄が十四種ある為に、この全銘柄に分割投資したと仮定した統計表であり、二十五頁に連載の株式の報道成績表も、十七業種に振り分けた、三十銘柄の売買損益統計表です。

而して、相場つきが怪しいから手仕舞だけにして置くとか、保合だから休むとかは、皆人智判断を加える為に、正確な損益統計表にならないと言うことで、残らず途転ドテンの成績表です。

このように訳すからむしろ、商品に例をとるなら三・四銘柄に絞って仕掛け、残る十銘柄を仕掛けないで、いつも出動のチャンスを見逃し、自信の持てる法則が出た銘柄が現れた場合は、未だ完全な転換と言えない仕掛け中の銘柄でも、手仕舞ってこれに乗り替えると言う方針でやつた方が良いと思います。

仕掛ける銘柄を覗むことが肝要

よく皆様は、私は小豆と手芒しかやらないのでとか、株も三・五銘柄しかやらないので、全銘柄が報道される週刊誌は必要だと言われている方がありますが、その考え方に呆れています。

という事は、自分が仕掛けている銘柄は、誰でも我田引水の観測になり易いが、仕掛けないで覗んでいる銘柄は、正確に転換が判るので、それに飛びつけないと思えます。

要するに相場は、出動のチャンスを掴む事が大切であることを強調して止ましません。

日本株全体の流れと資金の分散

分割投資とは、投資をする際に資金を分割し複数の銘柄に投資をすることをいうが、上げの若い相場(上昇し始めたばかりの相場)から老境の相場(十分上昇したと考えられる相場)に至る上昇(買いベース)過程の資金の分散法もあわせて、もう少し詳しく解説しよう。

分割投資法も投資家それぞれの投資スタイルによって様々ではあるが、中長期の買いベース投資を基本として例を示す。

株式に投資するための資金が1000万円あったとしよう。まずは日本株全体の流れと株価の位置によって投資の是非を判断する必要がある。大きな流れに逆らって投資してはならないと「天底と転換罫線型網羅大辞典」にはっきり書かれている。大きい流れが下降トレンド中であつたり、十分上昇しきった上げの老境相場と判断すれば新規での投資は控えるべきだ。休むも相場である。

大きな流れ(日経平均株価、TOPIX等の指標を利用して観測できる)が十分下落した下げの老境相場にあつて、買い法則を出現させたり、斜線を切って上昇し始めたころはどうであろうか。将来的に「底」となりうる位置だ。その際には、大きな流れを牽引しているような銘柄群から投資を開始する。もし、そのまま大きな流れが上昇したならば、大きく利益を得られる可能性が高い手法だ。しかし注意していただきたい

のは、1000万円全てを投資するわけではないということだ。投資資金は500万円程度、約半分ぐらいが妥当だと考えておきたい。

その後のシナリオとしては、

大きな流れは底と判断して買ったが下げトレンド中の一時的な戻りとなって再下落してしまった。

保ち合い相場に入ってしまう株価が変動しなくなった。

上昇トレンドに移り、1段目を形成した。

の3通りが考えられる。

のシナリオの場合、投資している個別銘柄の動き次第では損切りの必要がでてくるであろう。もし、個別銘柄が全体の流れに逆らって上昇していくような場合には持続する。だが、上昇が終了して売り法則が出現した際には利益を確定させることを考えたい。

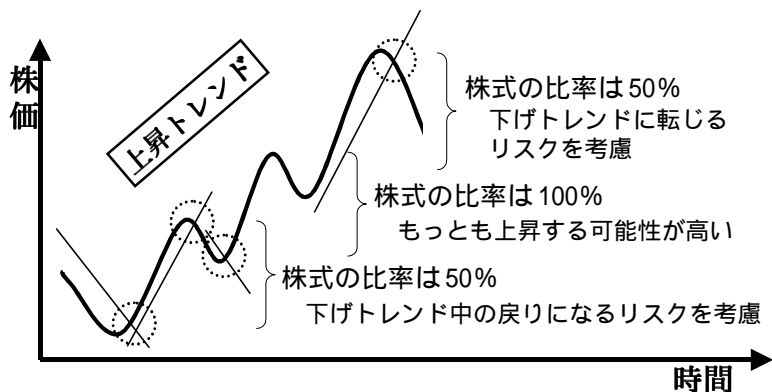
のシナリオの場合、どの幅のレンジ内の動きかを見極めて、その保ち合いから放れるところを注意深く観察する。下に放れた場合は損切りを考え、上に放れた場合にはそのままとする。

のシナリオの場合、大きな流れの一段目の上昇の終了をしっかりと見極める。同様に個別銘柄も段を形成しそうな場合には、過去の関門(関門については「学ぶ」シリーズ次回以降で解説)を注意深く観察し、その株価水準次第では下値斜線切り、鉤足売り法則の出現等をもって利益を確定させるのも手かもしれない。

のシナリオ後、いったん調整に入った大きな流れが再度上昇に転じた際にはどうすればよいか。上昇トレンド中の2段目と判断し、追撃買いをするのもよいだろう。資金の大半を投資すべき局面であるともいえる。投資対象も2段目や3段目の上昇に入りそうな銘柄に絞りたい。

さて、上昇相場が続いた後、相場の大きな流れが3段目に入って、上げの老境相場といえる位置になってきたらどうすべきだろうか。上図のように株式の比率を下げしていくのである。

以上が大きな流れに沿った資金の分割(分散)投資法である。なお、ここで説明した投資の流れは、個別銘柄に対する資金の分割法にもそのまま応用できる。底となりうる位置で1000株投資したならば2段目の上昇時に2000株に買い増し、3段目は1000株のみにするという投資法だ。リスクの少ないところでの投資を最も厚くするのである。実践していただきたい。



分割投資と損切り

個別銘柄の選択法について述べてみたい。大きな流れの上昇にあわせて上昇してきた銘柄群、あるいはいくつかの上昇のテーマの中から1銘柄ずつ、たとえば5銘柄×100万円といったように分割投資をおこなうことを基本とする。業種別日経平均を利用するならば、上昇してきたいくつかの指標を構成する銘柄群から、それぞれ1~2銘柄ずつ選ぶのである。あまりにも連動するような銘柄は分割投資の利点を得られない場合があることは注意していただきたい(ITバブル崩壊後、底だと思って購入した富士通とNECなどが同じように再度の下落をした例など)。

仮に大きな流れが上昇すれば、5銘柄のうち3~4銘柄は上昇していくものである。2銘柄について損切りをしたとしても、残り3銘柄が上昇すれば大きな利益を得ることは難しくない。重要なことは、株式を購入した際に設定した損切り株価(流動性のある銘柄ならば15%程度を目安として、それ以上下落すると下げトレンドになる株価)をしっかりと認識し、その株価を下回ったら必ず損切りをすることである。大きな含み損を抱える銘柄が無い状態を保つことが株式投資で勝つ秘訣だ。

2002年秋に大幅バージョンアップしたネットメンバーサービス「柴田秋豊の罫線」では、買いベース、売りベース(空売り)それぞれにポートフォリオ(資産)管理ができるようになった。さらに、目標株価や損切り株価を入力しておけば、毎日トップページでパーソナルニュースとして「目標株価に達しました」あるいは、「損切り株価になりました」といったように自動的に知らせてくれる。もちろん、鉤足法則の出現や、鉤足2法則での転換もニュース表示される。このような機能も、柴田秋豊先生の投資法を忠実に実行するための、現代ならではのツールと認識した上で、有効に活用していただきたい。

ネットメンバーサービス「柴田秋豊の罫線」のポートフォリオ(資産管理)画面(下図)

銘柄名	終値(日付)	前日比(%)	転換状況(転換日)	買付株価(登録日)	買付株数	時価評価額	評価損益(%)	最新情報	目標株価	損切り株価
7282 (東証1部) 豊田合成	2390 (02/11/15)	0 (0.0)	買 (02/11/13)	1450 (02/8/9)	1000	2390000	940000 (64.8)	株価値報 HPリンク	2650	-
7282 (東証1部) 豊田合成	2390 (02/11/15)	0 (0.0)	買 (02/11/13)	1970 (02/10/3)	1000	2390000	420000 (21.3)	株価値報 HPリンク	2650	-
7756 (東証1部) 日本電産コパル	1717 (02/11/15)	42 (2.5)	買 (02/4/15)	1380 (02/9/24)	500	858500	168500 (24.4)	株価値報 HPリンク	1700	1300
8029 (東証1部) ルック	378 (02/11/15)	6 (1.6)	買 (02/2/28)	172 (02/4/30)	10000	3780000	2060000 (119.8)	株価値報	250	156
8029 (東証1部) ルック	378 (02/11/15)	6 (1.6)	買 (02/2/28)	199 (02/7/1)	10000	3780000	1790000 (89.9)	株価値報	450	173
総資産合計					7,820,000	13,198,500	5,378,500 (68.8)			

柴田秋豊の罫線 パーソナルニュース (2002/11/15)

ポートフォリオ登録銘柄

- 分類1 (買いポジション)
 - ・日本電産コパルは、1700円の目標株価に達しました。
 - ・日本電産コパルに、「**ろく**」買法則が出現しました。

その日の最新ニュースが掲載。分割投資を効果的におこなうことができる(上図)